

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100740		
法人名	ティーシーブラネッツ有限公司		
事業所名	グループホーム遊空間 1Fユニット		
所在地	島根県松江市南平台11-1		
自己評価作成日	平成27年10月30日	評価結果市町村受理日	平成28年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=327
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成27年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・寄り添い対話することで相手の思いを知り、コミュニケーションを築き、安心して心地よい生活の継続につながるよう努力している。 ・毎日の体操、散歩、頭の体操、歌、嚥下体操などを続けることで、心身の活性化を図り、生き生きとした生活につながるよう努めている。 ・外出の機会を月2回程度設け、買い物や行楽を五感で感じてもらい、ご利用者の意欲や自立につなげるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年8月管理者の交代があったが、1F・2Fユニットは理念をもとにそれぞれの特色を生かした方針で取り組んでいる。1Fは毎日「脳トレ」「廊下を歩く」「外の空気を吸う」等を継続し利用者の力を活かし、2Fは家事活動を継続し自信回復に繋げる事でメリハリのある生活、夜間の安眠を目指している。日常的に地域と交流し、運営推進会議には多くの人が参加し理解や励まし等支援を受けている。研修中学生の感想文で、『大人になったら遊空間ではたらかいたい』と掲示されていた。職員はお互いの取り組みを大事にしながら情報を共有し、協力し合いサービスの向上に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、ご利用の方が生き生きと過ごせるように日々努力している。	それぞれのユニットが工夫して理念の実践に努めている。1Fは職員会での唱和や、利用者にわかるように替え歌にしている。2Fは研修会をしたり、支援内容に組み込み意識して取り組んでいる	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除、祭りの参加など普段からの関わりを大切にしている。	地域の祭りでは利用者の席が用意されていたり、古新聞、古布を届けてくれる人、弱った松の鉢植えを自宅で植え替えてくれる人などあり日常的に地域の人との見守りや交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいた時や、避難訓練に参加していただいた時に、ご利用者の現状を知っていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の現状を話し、参加者の意見を聞き、サービス向上に努めている。	日頃から委員と交流し、事業所の困っていること、地域の声など率直に話し合っている。訓練や喫茶の日などの行事と併せて開催することもある。家族には便りに併せて案内し要望を聞くようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、生活福祉課、包括支援センターとの情報交換を行い、連携に努めている。	日頃から利用者の状況を伝えたり情報交換を行い協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員研修を行い、普段からも身体拘束について話し合うこともあり、身体拘束について理解を深めている。	職員研修を行い内容の理解に努めている。ドアは開くと音楽や風鈴がなり、2Fの利用者が出た時は1Fでお茶を勧め気分転換を図るなど、連携して取り組んでいる。	引き続き、日常の何気ない言葉や行為をみんなで振り返りながらケアに取り組まれることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行い、職員同士も普段から注意しあい、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料があり誰も見ることができ、実例からも学ぶことができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時はご利用者ご家族が納得されるよう時間をかけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の不安、不満などを聴くよう心がけ、ご家族が来られた時も、ご利用者の状況を報告し要望を聴くようにしている。	運営推進会議や面会時に各ユニットの主任を中心に生活状況を報告し、家での暮らしぶりを聞く中で要望を聞いている。普段から関係作りをするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度行っている職員会議で意見を聴くようにしている。	職員会議や、日頃からコミュニケーションを図り意見を聞いている。職員は主任や管理者に勤務のことや思いなどを伝え、出された意見は改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員との個別面談などを繰り返し設け、努力、実績、希望など把握し、給与水準などの見直しをし、職員が向上心を持てるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は行っているが外部の研修については参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の研修会などあるが参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っていることや、不安、要望を十分に聴き、サービス提供を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心していただけるような良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書の内容や、ご本人ご家族と面談し、必要ならば担当ケアマネ、包括支援センターと相談し、他サービスも検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人ひとりに合った作業を行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも協力していただき、ご本人を支える関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時はゆっくり過ごしていただけるようにし、大切な方とのつながりが継続できるよう支援を行っている。	きょうだいの面会時は部屋でゆっくり話してもらい本人も笑顔で対応している。2Fでは趣味の会の人の訪問が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりの性格や感情の変化を理解し、ご利用者同士の良好な関係作りのお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても面会を繰り返し、新しい生活の場で混乱が最小限になるよう情報提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話からご利用者の思い、意向を把握するよう努めている。表現できない方はご家族に聞いたり、普段の細かい表情からも把握するよう努め、職員同士情報を共有するようにしている。	普段の表情や行動から思いを読みとるよう努めている。家族の知らない利用者の表情もあり、事業所での踊りの写真を見てもらい驚かれたこともある。職員会議で思いを検討し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただき、生活歴など情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者それぞれの生活リズムやその日の体調、出来ることなどを細かく記録に残し、情報共有し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者ご家族には日常的な関わりから、意見や思いを聴くようにし、毎月の会議で担当者を中心に話し合いを行っている。	家族からの要望は少ないが、利用者の情報をもとに話し合いプランを作成している。毎月ケアの実際を振り返っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し、特に必要と思われる内容については別の記録物に写し、情報共有に努め見直しをしている。必要時は観察シートへの記録もし実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により個別に買い物支援を行ったり、自宅に帰られる際の付き添いを行ったりしている。また、医療面でも訪問診療や訪問看護などの利用もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員や福祉推進員の参加があり情報交換を行っている。また地域の理容組合や理容師の訪問によるサービスも受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の確認をし、基本的にはご家族による受診をお願いしているが、できない時は職員が代行している。また、訪問診療も受けている。	希望のかかりつけ医を受診し、職員が同行し支援している。何十年來のかかりつけ医を受診する人もある。訪問診療の体制もとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約により、いつでも相談できるようになっている。月2回の訪問によりご利用者の状態をみてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は普段の生活の状況を細かく伝え、入院時は職員が出来る限り、顔を見せるようにしている。医師や看護師との情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明を行い、理解をもらった上で入居してもらい、状態が変わった時点でも話し合いを行っている。	契約時に看取りはしないこと伝えているが、常時医療処置が必要なれば事業所で出来る事は可能な限り支援する姿勢で取り組んでいる。利用者の状況に合わせ医師の判断で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の研修を年1回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、地域が行っている避難訓練にも参加している。	1回は運営推進会議に併せて実施した。地域の人に2Fからの避難方法を見てもらいアドバイスを受けた。地域の中で事業所の防災担当者が決められていて地震の対応なども積極的に話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する研修を行い、プライバシーを損ねるような対応にならないように努力している。	職員は普段から言葉使いに気をつけているが、自分では気づかない事もあり職員同士注意合っている。トイレへ誘導する時の声かけや見守りなど利用者を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を聴くように心がけ、自己決定に結び付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿って対応しているが、その都度その方の自己決定、ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者一人ひとりに合わせた身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に好みの物を聞きながら、食事作りをしたり、片づけを手伝ってもらったりしている。また、行事食や季節メニューもあり、楽しみにつなげている。	献立表はなく両ユニット共に食材や「寒いから豚汁がいいね」など食べたいものを聞き献立を決めている。玉ねぎの皮むき、盛り付けなど出来る事を一緒にしてもらっている。1Fは毎月「赤飯の日」を設け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとりの食事量、水分量の把握をし、必要であれば食事の形態やメニューの変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりのペースを考え、その方に合わせた間隔でトイレ誘導し、調子を見てできる限り自分の力を使っていたりよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンに合わせて誘導し、早めの誘導で失敗なく快適に過ごせるように支援している。利用者の出来る事はしてもらい、プライドを傷つけないよう必要な見守りを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時の対応や排便のタイミングなど、毎日のミーティング時に相談し、飲食物の変更や、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんでいただけるよう時間やタイミングをその都度ご利用者に聞きながら決めている。	希望に合わせて入浴出来るように支援し、時間を変えたり気分のいい時に声をかけ支援している。気の向かない人には言葉かけを工夫し誘ったり、職員を替えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況で居室の温度、衣服、寝具の調整をし、ゆっくり休んでもらうようにしている。夜間は日中の様子を把握した上で安眠していただけるよう支援している。L		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は誰もがいつでも確認できる場所に置かれ、内容把握できるようにしている。訪問診療や受診で薬に変更がある場合も記録、引継ぎで情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの好みや特技など日常会話から聴き取り、折り紙や日記作成、歌など楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、日光浴をしている。月二度の外出行事も行っている。	1Fは天気が良ければ外へ出かけ、「買い物に行きたいわー」の希望にも個別対応している。2Fは買い物希望は少ないが、「温泉に行きたい」の声でユニット全員で温泉の家族風呂を貸切り出かけるなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、小額のお金を持っておられるご利用者もおられる。月一度は買い物のため外出し、財布を持ってもらい、買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、かかってきた電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは中庭の芝生やプランターの花が眺められ、玄関には季節の花が植えてある。畑では季節の野菜を作っている。	利用者が手がけた干し柿、生け花、アレンジフラワーや、職員や近所の人々が持参した花を飾っている。9月に玄関周りを見直し、ベンチの高さ調整等を行った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下の椅子でくつろいでもらっている。天気の良い日は玄関先や中庭でゆっくり過ごしていただくこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っておられた馴染みの調度品など自由に持ち込んでもらい、居心地の良い環境作りを行っている。	入居時好みの物、使用の物を持参して欲しいと伝えている。タンスや鏡台、遺影等を持参している人もある。ベッドの傍に写真を置いたり手の届く所に物を置く等、利用者に合わせて居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の身体状況に合わせて、居室内の配置を変えたり、座って休める椅子を増やしたりしている。		